

# 土砂災害対策

## 土砂災害の知識

### 土砂災害の種類

台風や集中豪雨、地震により、色々な土砂災害が予測されます。

地中にしみ込んでいる水の量が多いほど、発生する数や規模が増します。また、短期間に集中して降る場合に発生しやすく規模も大きくなります。特に土石流は、短期間の強い雨が引き金になります。

#### 【がけ崩れ】



急な斜面が大同等によって緩み突然崩れ落ちる現象です。

#### 【土石流】



谷や溪流から、土砂や石、木を含んだ濁流が、凄い勢いで押し流される現象です。

#### 【地すべり】



比較的広い範囲にわたり雨を含んだ土地が、ゆっくりと動き出す現象です。

### 土砂災害の前兆

がけ崩れのほとんどは、梅雨や台風の時期に発生しています。長雨や大雨により地面に大量の水がしみ込み、弱くなった斜面が崩れるためです。

地域によって異なりますが、1時間に20mm以上、または降り始めてから100mm以上の雨が続いたら、土砂災害の危険が高いとされています。また、雨が上がった後で災害が起こることもありますので、十分な警戒が必要です。

雨が降り続き次のような前兆現象が現れた時は要注意

#### ■ がけ崩れの前兆現象



- がけから小石がバラバラと落ちてくるようになった時。
- がけから水が湧き出てきた時。
- がけに割れ目ができた時。

#### ■ 土石流の前兆現象



- 「山鳴り」といって、山全体がうなるような音がする時。
- 川の流が濁ったり、流木が混じっている時。
- 雨が降り続けているのに、川の水が減っている時。

#### ■ 地すべりの前兆現象



- 井戸の水が濁った時。
- 地面にひび割れができた時。
- 池や沼の水の量が急激に変化した時。

#### 土砂災害時の心得

気象情報などに注意して早めに避難しましょう。特に長雨、大雨の降りやすい梅雨や台風の時期は十分に注意しましょう。

- 一般的に雨量が1時間に20mm以上、または降り始めてから100mm以上になったら、土砂災害の注意が必要です。
- 土石流はスピードが速いため、流れを背にして逃げるのではなく、流れに対して直角に逃げましょう。

### 土砂災害警戒情報の発表

#### □土砂災害警戒情報とは

大雨警報（土砂災害）が発表されている状況で、土砂災害発生危険度が非常に高まったときに、市町村長が避難勧告等の災害応急対応を適時適切に行えるよう、また、住民の自主避難の判断の参考となるよう、対象となる市町村を特定して都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。

#### □土砂災害警戒情報の利用上の留意点

土砂災害警戒情報は、降雨から予測可能な土砂災害のうち、**避難勧告等の災害応急対応が必要な土石流や集中的に発生する急傾斜地崩壊を対象としています。**しかし、土砂災害は、それぞれの斜面における植生・地質・風化の程度、地下水の状況等に大きく影響されるため、個別の災害発生箇所・時間・規模等を詳細に特定することはできません。（技術的に予測が困難である斜面の深層崩壊、山体の崩壊、地すべり等は、土砂災害警戒情報の発表対象とはしていません）

#### □土砂災害から身を守るために知っておきたいポイント

- 住んでいる場所が「土砂災害危険箇所」であるかどうか確認する。
- 雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意する。
- 早めの避難が重要  
(土砂災害警戒情報が発表されていなくても、斜面の状況には常に注意を払い、普段とは異なる状況に気付いた場合には、ただちに周りの人と安全な場所に避難し、市役所にも連絡してください)